

5年後(2017年)のビジョン

【人】

→誰もが一女性・子ども・高齢者など社会的に弱い立場にある人も一、一人ひとりの「感性の言葉」が活かされ、笑顔で元気にいられる

【コト】

→ともに「アートを通じた何か」をすることを通じ、お互いの「感じ方」や「生き方」の違いを認めあい、受け止めあうことで、いろいろな人につながり、楽しさや感動が共有されている

【場】

→公式・非公式を問わず、地域の人々が自ら担い、いつでも・誰でもフレキシブルに活用できる「アートに触れられる場所」「壁にぶつかった時に戻って来られる場所」が、あちこちに(学区に1つ程度)ある

【お金】

→潜在的なニーズを活かしてアートに付加価値をつける仕組み・仕掛けができることで、経済が地域の中で循環するとともに、クラウドファンディングなどを活用して外部からお金を集めるプロ(ファンドレイザー)がいる

ビジョンへのロードマップ(2014年～2016年)

- つくば市民大学で、廃校・空家などをフューチャーセンターやコミュニティスペース(アートを通じて人が集う場、複数の機能を持った場)にするためのプロジェクトを立ち上げる
- キーパーソンに働きかけるとともに、「本気度の高い仲間」を集めて組織をつくり、助成金などを活用して、地域の人々が「自分たちの場」と思えるような場のマネジメントや、将来の自分や地域への投資となるようなプログラム・イベントの企画・開発を行う
- 資金調達に明るい方の協力を得つつ、組織のメンバーが学ぶことで、多くの人から支援が得られるアートファンドをつくる

ロードマップへのアクション(2013年)

- まずは、一人ひとりが本気になる
- 次に集まる日程を決める
- つくば市民大学での「アートを活かしたコミュニティスペースをつくろう」プロジェクトを企画・実施する

【地域×アート 実践編】

- つくば市民大学2学期(9～11月)に、上記プロジェクトを実施する
 - 7月25日のつくば市民大学運営委員会に間に合うように、企画を練り上げる
 - 5～7月に企画会議を行う
 - 第1回:6月29日(土)20:00～22:00 つくば市市民活動センター
 - 第2回:7月13日(土)13:00～15:00 つくば市民大学